

令和2年9月2日
京都府中丹東農業改良普及センター
京都府中丹西農業改良普及センター

台風9号の接近に伴う技術対策について

台風9号が現在フィリピン東にあり、9月3日頃には近畿地方に接近する可能性があります。台風が通過する場合は、暴風や大雨が予想されます。今後の台風情報に十分注意し、安全を確保した上で対応していただきますようお願いします。

台風通過前後は以下の事項や園芸用ハウス被害防止対策マニュアルを参考に、十分な対策を講じてください。

1 水 稲

(1) 通過前

- ① 強風が予想される場合、中・晩生品種は、倒伏、乾燥防止のため、深水管理に努めます。
- ② 早生品種で既に刈取適期になっているものは、天候を考慮しながら速やかに刈り取ります。**特に、京の輝き、キヌヒカリ等穂発芽しやすい品種は、刈り遅れないように注意します。**

(2) 通過後

- ① 滞水している場合は、速やかにほ場の排水に努めます。
- ② 成熟期に達し倒伏した稲はできるだけ早く刈り取り、品質低下の防止に努めます。特に京の輝き、キヌヒカリ等の穂発芽しやすい品種には注意します。

2 豆 類（「紫ずきん」「小豆」を含む）

(1) 通過前

- ① **必ず排水路、排水口等の点検を行い滞水させないようにします。**
- ② 黒大豆については、支柱・ビニールひも等による倒伏防止対策を行います。

(2) 通過後

- ① 枝豆は、倒伏して莢が地面についていると腐敗するため、その部分を直ちに起こします。その際は、株元を足で押さえるなどして根と土を密着させながら起こします。その後、腐敗防止のため、殺菌剤の散布を直ちに行います。
- ② 浸冠水した場合は速やかにほ場の排水を図り、病虫害防除を行います。特に、小豆については茎疫病の防除のため殺菌剤の散布を行います。

3 野菜、花き

(1) 通過前

- ① ハウス栽培については、中に風が吹き込まないように、被覆資材破損部を補修テープ等で塞ぎ、しっかり閉めきります。

資材固定金具やハウスバンドが緩んでいないか点検して、フィルムの種類が農ビの場合はしっかりと、農POの場合は風でばたつかない程度に締め直します。また、サイドは風であおられないよう固定します。

ハウスの扉が揺すられて開かないように固定します。

ハウス内に浸水しないように、ハウス周辺の排水路を整備します。

ハウス周辺の物は、強風で飛ばされてフィルムを破損させる恐れがあるため片付けます。

- ② 露地栽培については、支柱やフラワーネットを点検して補強し、しっかり固定します。直播きでまだ生育初期のものは、べたがけ資材等で茎葉を押さえます。その際、べたがけ資材は風にあおられないようにしっかり固定します。また、ほ場が冠水しないよう、排水路を整備します。

(2) 通過後

- ① 滞水している場合は、速やかにほ場の排水に努めます。
- ② 液肥（500～1,000倍）を施用し、草勢の早期回復を図ります。
- ③ 風雨による傷からバクテリアや菌類が侵入し、病害の発生が予想されるため、こまめに観察し、発生初期に防除を行います。
- ④ 収穫可能なものは速やかに収穫し、また、は種直後で発芽不良の場合は、速やかに蒔き直しを行います。

4 茶

(1) 通過前

- ① 新植、幼木茶園は、風害を受けやすいため、株元に土寄せを行います。特に、風当たりの強い茶園では、竹・杭等に茶樹を結束します。
- ② 傾斜地茶園や新しく造成した茶園では、降雨量が多いと土壌浸食の恐れがあるため、周辺排水溝の整備を行います。
- ③ 被覆茶園では、化学繊維等の資材を支柱へ結束します。洪水で被覆資材が浸かる可能性がある茶園の場合は、取り外します。
- ④ 挿木床では、ビニル等被覆資材の補強を行います。

(2) 通過後

- ① 茶園が浸水した場合は、速やかに排水を図るとともに漂着物を除去します。
- ② 強風のため葉が傷ついた場合は、輪斑病対策として、殺菌剤を散布します。
- ③ 強風で株元がぐらぐらになった幼木園では土寄せを行い、地際部や根を保護するために敷草等を行います。

5 果 樹

(1) 通過前

- ① 防風ネットは、柱の倒壊を防ぐため、控え線や杭を打って補強します。また、ネットの破れ目を補修しておきます。
果樹棚は、周囲線の留め金、アンカーからの控え線、吊り線を点検し、切れないように補強しておきます。また、棚の揺れ止め補強を行っておきます。
- ② 棚利用の果樹は、枝の誘引をしっかりと、枝折れや果実の落下を防ぎます（傷果防止）。
- ③ 徒長枝等はできるだけ整理して風通しを良くしておきます。
- ④ 収穫できる樹種では、できるだけ収穫します。
- ⑤ 排水対策（明きょ等）をしっかりと行っておきます。
- ⑥ 収穫の終了したハウスでは、強風にあおられないようビニルを外しておきます。

(2) 通過後

- ① 落下した果実は、園外に持ち出して処理します。
- ② 骨格枝が完全に折れた場合は、鋸等で折れ口をなめらかに切り戻して、癒合剤を塗布します。折れが完全でない場合は固定し、癒合面が乾燥しないようにビニル等で覆います。
- ③ 浸冠水した場合は、速やかな排水に努めます。
- ④ ブドウではべと病の発生が予想されるため、殺菌剤を散布します。

6 その他

- ① トラクターなどの農業機械をほ場に放置せずできる限り倉庫にしまっておきます。
- ② 通過中や通過後にほ場の様子を確認する際は自分の身の安全を確保します。